

令和6年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第3学年生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 文学的文章において、本文から内容を読み取り、どのような問題形式も解く力が身に付いている。
- 漢字の読み書きや文法問題など、基本的事項の問題に対して苦手意識なく取り組むことができる生徒が多い。
- 説明的文章や論説文において、図や資料から情報を読み取ったり、要点をおさえて答えたり問題にする課題が見られる。

【数学】

- 確率を求めたり、データの傾向を読み取る問題の正答率が県や全国の平均を上回っており、データから必要な数値を求めたり、分析したりする力が身に付いている生徒が多い。
- 無解答率が県や全国よりも低く、粘り強く問題に取り組み、解答しようとする生徒が多い。
- 図形の問題の正答率が県や全国の平均を下回っており、立体をイメージしたり覚えた公式などを発展させて活用したりする力に課題が見られる。

2 生徒質問紙に関する結果の概要

- 人の役に立つ人間になりたいと思うという項目が県や全国を大きく上回っている。
- 学級の生徒と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができているという生徒が90%以上いる。
- 家庭での学習時間が0～30分の生徒が平日で30%程度、週末で50%程度いる。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・全校での授業研究と授業改善の推進（学年教師集団、各教科部会における授業研修）
- ・ICTを活用した言語活動と教材提示
- ・個に応じた学習形態及び交流活動の工夫

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・学習の動機付けに着目した校内主題研究
- ・ICTの活用を含む授業研修会
- ・各教科主任を中心とした学力向上委員会による学力分析と対策の共有化

(2) 生徒質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・進路指導、いとしま学、起業家教育などのキャリア教育の推進
- ・交流活動において自他の考えを表出し、強化・深化させることをねらいとした視点の提示

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・家庭・地域と連携した家庭学習の充実と効果の検証
- ・生徒の主体性を柱とした、新たな学習指導法の研究への着手